

## 第6学年国語科学習指導案

6年1組 23名 指導者 湯川健一郎

6年2組 23名 指導者 大久保 萌

### 1 分科会提案

#### (1) 「よい学習」

高学年分科会第6学年が目指す「よい学習」とは、学ぶべきことが明確になっており、「できた」「分かった」などの手応えを自分で感じられる、一人一人が自分事として学習と向き合い、「もっと知りたい」「やってみてみたい」と思える学習である。

#### (2) 「よい学習」を実現するための手だて

##### ① 前向きな姿勢になれる学習展開

鳥獣戯画の一場面を選び、想像を広げていく。学習意欲を高めるために一人一人がさらに、選んだ場面について自分なりの解釈をもち、対話することで、より想像を広げて解説文に書く内容を豊かにすることができる。

##### ② 振り返りの設定

毎時間の振り返りの視点を「感じた、考えたこと」「次の学習に生かせること」とし、その時間に何を学び、どんな学びを次に生かせるかを振り返り、学びの過程を可視化する。単元を通して1枚の振り返りカードとすることで、学んできたことやこれから学ぶことが分かる活動にしていく。また、毎時間の始めには、本時の学習が自分事になるように、これまでの振り返りを活用する。

##### ③ 「ぎがトーク」

対話を通して、自分と友達との思いや考えに共通点や相違点があることを実感させ、考えを深めたり広げたりして進んで伝え合う力を育成する。「鳥獣戯画」を学ぶための対話であることを意識させ、前向きな姿勢になって児童が学習に参加できるようにする。

「思考の深まりや広がりや蓄積していくこと」を「パソコンにデータを保存するイメージ」と重ね、容量を表す「GIGA」の音と「鳥獣戯画」の「戯画」の音を掛けて本単元で行う対話活動に「ぎがトーク」という愛称を付けて取り組む。

児童が素直な反応で活発に対話するために、“対話の前に準備させすぎない”“人数はなるべく少なくする”ということに留意して指導していく。

### 2 単元名「解説者、ミニ高畑勲になろう」

教材名 『鳥獣戯画』を読む 高畑 勲 (光村図書 国語6年)

### 3 教材観

児童一人一人が解説者となり、町六鳥獣戯画展に出展する鳥獣人物戯画甲巻を解説する文を書くために、それぞれの解釈を広げたり深めたりしていく。

本教材は、文筆家ではなく映画監督、アニメ演出家として知られる筆者が書いた説明的な文章である。小学校の国語科で扱われるオーソドックスな三部構成(初め・中・終わり)ではなく、鳥獣人物戯画絵巻物の描写から第1段落は始まっていく。鳥獣戯画の素晴らしさを伝え、更には、絵巻物が作られた時代背景やその独自性を紹介し、それが、今に伝わる希少性にも触れ「素晴らしい作品」から、「自由闊達な人類の宝」まで評価を昇華させていく。

本文には、絵に対する解釈と評価が至るところに見られる。絵を描写した部分と筆者の解釈・評価を区別して読ませたい。評価の表現については、明確に分かる直接的な表現と、筆者の感情が表出しているものがある。児童がそれらを見付けることは、比較的容易であると考えられる。筆者の書いた解説文の巧みさ、筆者の鳥獣戯画への愛が読み手に伝わる本教材のように、自分の選んだ場面で注目した部分を意識して対話ができるようにしていく。

#### 4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(1)カ	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 C(1)ウ	・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとすることができるようにする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	◆文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ	◆考えを効果的に伝えるための筆者の工夫を捉えている。C(1)ウ ◆論の展開や表現、資料の使い方などについて、筆者の工夫とその関係や効果を考えている。C(1)ウ	◆鳥獣戯画甲巻について関心を持ち、教材文を読んだり、友達と話し合ったりする中で、自分の考えを広げようとしている。

#### 5 児童の実態

##### (1) 1組

「やまなし」の学習では、宮沢賢治の作品を読んで、疑問に思ったことや、その疑問に対する予想を物語の文中から根拠となる表現を見付け出し、生活経験などを付け加えながら対話することを重点的に行った。対話の様子や振り返りから、分からなかったことが少しずつ見えてきた児童は半数以上、自分の根拠としていたことがより確かなものになり、考えを広げられた児童は数名程度見られた。友達と関わりながら学習することで、新しい発見があったり気付いていないことを教えてもらったりと、期待感をもって学習に取り組む姿が見られた。また自分の考えを表現することに難しさを感じていた児童も、自分なりの解釈を友達から認めもらうことで、自信をもって対話する姿が見られるようになった。

##### (2) 2組

「やまなし」の学習では、物語を読む中で疑問に思ったことを挙げ、その疑問に対する予想や自分なりの解釈を文中から根拠を見付けて、対話することを重点的に行った。対話の中では、友達の解釈を聞くことで、人によって解釈の仕方が異なることに気付くことができた。さらに、自分の解釈だけでは分からなかったことが友達の解釈と重ねることで見えてきたり、自分の根拠としていたことがより確かなものになったりする児童の姿が見られた。さらに、日頃の学習で、自分の意見をもって対話に参加することが難しい児童も、少人数の中で学習を進めていくことで、物語の世界の面白さに気付き、自分なりの解釈をもって対話に参加するなど、前のめりになって学習に向かう姿勢が見られるようになった。

## 6 指導計画(10 時間)

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
第1次	1	① 『『鳥獣戯画』を読む』の表現の工夫を生かして、自分の好きな1場面についての解説を交流する学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「解説者、ミニ高畑勲になろう」と題して、鳥獣戯画の好きな場面について友達と対話することを伝え、本単元の具体的なゴールイメージをもたせる。</li> <li>◆学習内容を理解し、意欲的に学習に取り組もうとしている。</li> <li>【態】☆観察</li> </ul>
	2・3	② 絵巻物や鳥獣戯画、筆者について知る。 ③ 教科書の絵を読み取る。(模写する。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文に入り込みやすいように、絵巻物のレプリカを全体で見せてイメージをつかんだり、高畑勲について紹介したりする。</li> <li>・絵を見て注目した部分や自分の考えをワークシートに書く。</li> <li>・模写する目的を明確にし、運筆、色の濃淡、動物の特徴、動きなどに注目させる。</li> <li>◆鳥獣人物戯画甲巻について関心をもち、学習の見通しをもって学習に取り組もうとしている。</li> <li>【態】☆観察</li> </ul>
第2次	4	④ 教科書 P157 の絵と文章を照らし合わせながら、筆者が鳥獣戯画をどう読んでいるかを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に注目しているか、本文に線を引かせるなどして読み取れるようにする。</li> <li>・自分と筆者とのものの見方や考え方の違いに気付かせる。</li> <li>◆高畑勲の考えが伝わるような書き表し方の工夫が分かる。</li> <li>【知】☆観察・発言・記述</li> </ul>
	5	⑤ 鳥獣戯画の魅力を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高畑勲の解説文と照らし合わせながら鳥獣戯画を見て、表現の工夫で気付いたことや、魅力を考えられるようにする。</li> <li>◆鳥獣戯画甲巻について関心をもち、高畑勲の巧みな表現について考えている。</li> <li>【知】☆記述・発言</li> </ul>
	6	⑥ ぎがトーク①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 P156・157 を読んで、高畑勲の表現の巧みさや面白さについて対話することで、自分と友達とのものの見方や考え方の違いに気付かせる。(トリオ)</li> </ul>
	7 (1組本時)	⑦ ぎがトーク②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動を参考に、P158 以降を読んで、高畑勲の表現の巧みさや面白さについて対話することで、自分と友達とのものの見方や考え方の違いに気付かせる。</li> <li>◆論の展開や表現、資料の使い方などについて、筆者の工夫とその関係や効果を考えている。</li> <li>【思】☆観察・発言・記述</li> </ul>
第3次	8	⑧ 自分が解説したい鳥獣戯画の場面を選び、それから感じることや気づきを書き出す。(個人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トリオには絵巻で続いている場面の絵を選べるようにする。</li> <li>・一番解説したいところや、魅力を伝えたいことに注目させる。</li> <li>◆目的に応じて、感じたことや考えたことなどから場面の絵を選び、必要な情報を見付けたり、論の進め方を考えたりしている。</li> <li>【思】☆発言・観察・記述</li> </ul>

9 (2 組 本 時)	⑨ ぎがトークを通して、自分が気に入った鳥獣戯画の場面を解説する。(トリオ) ぎがトーク③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ場面の書きぶりや魅力を自分なりの根拠を基にした解釈として対話することで、想像を広げていけるようにする。</li> <li>・ぎがトーク③とぎがトーク④のトリオのメンバーは、入れ替えて行う。</li> </ul>
1 0	⑩ 自分が気に入った鳥獣戯画の場面について読み取ったことを対話し、考えを広げる。 ぎがトーク④	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆話し合いを通して、選んだ場面の情景を具体的に想像している。【思】☆観察・発言・記述</li> <li>◆筆者の工夫とその関係や効果を考えながら、自分が気に入った鳥獣戯画の場面について対話している。【思】☆観察・発言・記述</li> </ul>

全ての時間：◆本時の学びを振り返り、その時間に何を学び、どんな学びを次に生かせるかを考え、その学びの過程を可視化する。☆記述

本単元は「『鳥獣戯画』を読む」と「発見、日本文化のみりよく」の複合単元である。「発見、日本文化のみりよく」の学習は、「選んだもののよさが効果的に伝わる文章を書く」という単元目標である。前単元の学びと児童の学習意欲を継続させるために、「『鳥獣戯画』を読む」の学習を生かして解説文を書き、町六鳥獣戯画展に出展することとした。

7-1 本時の学習 (6年1組: 7/10 時間目)

(1) 目標

トリオでのぎがトークを通して、高畑勲の表現の巧みさや、鳥獣戯画の魅力について考える。

(2) 展開

	○学習活動 C: 想定される児童の答え	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○単元のゴールと本時のねらいを確認する。	・本時の学習が自分事になるように、これまでの振り返りを引用し、学習のめあてを提示する。
	高畑勲の表現の工夫や効果について、友達と対話しよう。	
展開 (32分)	○挿絵の場面で注目したところを書き出す。  ○挿絵の場面から自分が注目したところについて発表する。 C: 高畑勲さんは兎や蛙の様子だけではなく、表情にも注目しているところがすごいと思いました。 C: 教科書でいうと P159 の6行目に「目も口も笑っている。」と書いてあったね。 C: P157 の絵でいうと、ここの部分(指をさす)だね。 C: とても楽しそうにしているね。よく見てみると、P157 の周りで応援していた兎たちも笑っているね。	・筆者の工夫の中で、特に効果的だと思ったものは何か、理由とともに考えさせる。  ・「自分ならどう考えるか」を意識しながら聞くように指導する。 ・言葉だけでは伝わらないため、場面を示しながら説明すると分かりやすいことに気付かせる。 ・「なぜそう考えたのか」と理由を付けて対話が行われるように指導する。 ・対話内容を書く時間を保証し、相手の話を理解したり、質問したりする時間であることを明確にする。 ・対話が終わったら、トリオのメンバーを入れ替えて再度行う。
まとめ (8分)	○本時の学習を振り返る。  ○次時の学習の見通しをもつ。	・自分なりの解釈に生かせそうなことや考えが深まったり広がったりしたことなどを、振り返りカードに記入させる。 ・一つの場面からいろいろな考え方を受け取れることを確認する。  ◆論の展開や表現、資料の使い方などについて、筆者の工夫とその関係や効果を考えている。 【思】 ☆観察・発言・記述

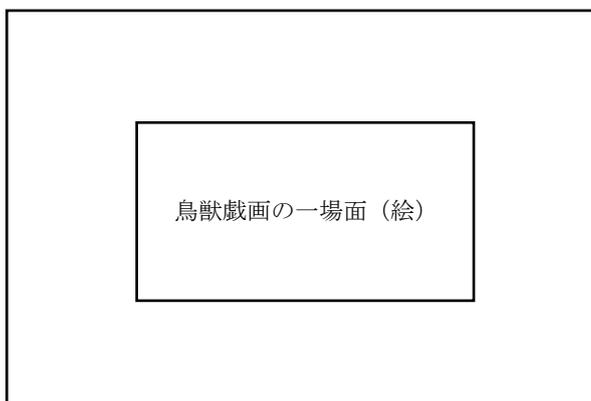
(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
<p>友達との語り合いを通して、自分の考えを広げている。</p> <p>「この筆者の表現について、もっと調べたい。」「〇〇さんの考えを聞いたなら考えが〇〇に変わった。」「〇〇という新しい発見が生まれた。」等、次の学習に向けての振り返りを書いている。</p>	<p>「鳥獣戯画」の魅力を見付け出し、そのことについて友達と語り合っている。語り合いを通して、自分の考えと友達の考えを比べている。</p>	<p>本文中から筆者の解説を示して、「自分はどのように見えたか。」などのように声を掛け、語り合うきっかけを作る。</p>

(4) 板書計画

<p style="text-align: center;">学習の流れの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書く</li> <li>・ぎがトーク (高畑勲の表現の巧みさ (鳥獣戯画の魅力)</li> <li>・振り返り</li> </ul>	<p style="text-align: center;">解説者、ミニ高畑勲になろう</p> <p style="text-align: center;">鳥獣戯画を読む 高畑勲</p> <p style="text-align: center;">高畑勲の表現の工夫や効果について、 友達と対話しよう。</p>
--	--

ワークシート



(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

◎鳥獣戯画の魅力を見付け、自分なりの解釈を見付けられるようにする。

- ・一番最初に目がいったところはどこですか。
- ・その部分はどんな様子に見えますか。

◎対話に参加し、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

- ・〇〇さんは、どう考えますか。
- ・どうしてそう考えたのですか。
- ・他にはどんなところに、巧みさや魅力を感じますか。
- ・高畑勲の解説文に書かれていない部分でも考えてみましょう。

## 7-2 本時の学習（6年2組：9／10時間目）

(1)目標 トリオでのぎがトークを通して、自分が気に入った鳥獣戯画の場面を解説する。

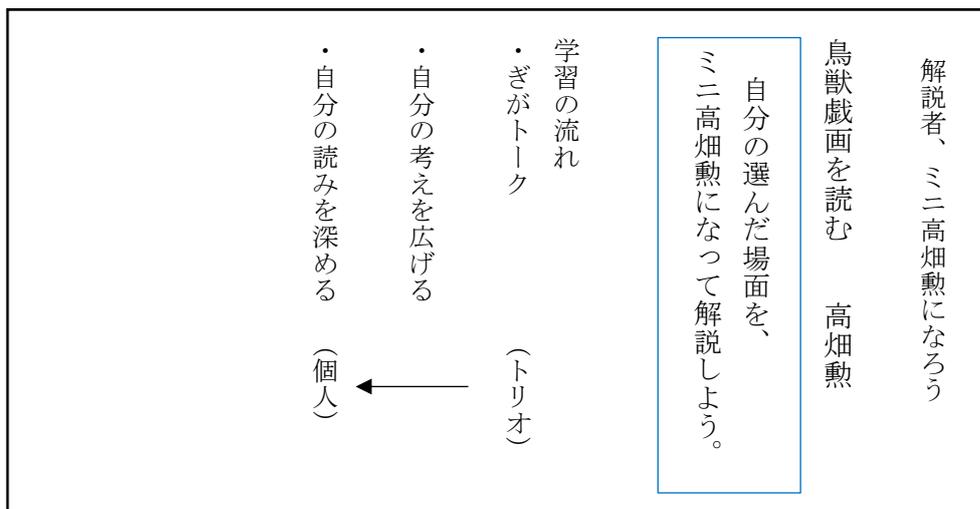
(2)展開

	○学習活動 C：想定される児童の答え	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○単元のゴールと本時のねらいを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短く説明できるように何を話すか計画を立てさせる。</li> <li>・本時の学習が自分事になるように、これまでの振り返りを引用し、学習のめあてを提示する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     自分が選んだ場面をミニ高畑勲になって解説しよう。                 </div>	
展開 (32分)	<p>○それぞれの解釈について、トリオで話し合う。</p> <p>C：ぼくはこの場面の兎と蛙が○○しているように見えます。</p> <p>C：私は○○に見える。</p> <p>C：この兎は○○しているようにも見えるね。</p> <p>C：でも、○○しているのかもしれないよ。</p> <p>○新しい気づきをワークシートに書き入れる。</p> <p>○解説文の書き出しを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が話し合いやすいように、前時の様子によって、話し合いのワークシートを変える。</li> <li>・話し合いが進んでいないトリオが活発に話し合えるように、選んだ場面をプロジェクターで映し出し、指導者も入って対話する時間をつくる。</li> <li>・対話内容を書く時間を保証し、相手の話を理解したり、質問したりする時間であることを明確にする。</li> <li>・解釈を充実させるために、話し合いの内容を忘れていたら、トリオの友達と相談して書いてもよいことを伝える。</li> <li>◆話し合いを通して、選んだ場面の情景を具体的に想像している。【思】☆観察・発言・記述</li> <li>・魅力、気に入ったところ、素晴らしさについて、解説文の書き出しを書かせる。(書き出しを書ける児童には書かせる。)</li> <li>・書けない児童への支援や書けた児童への肯定的な評価のために、書き出しをいくつか紹介する。</li> </ul>
まとめ (8分)	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>○次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの解釈に生かせそうなことや考えが深まったり広がったりしたことなどを、振り返りカードに記入させる。(学習を通して同じ視点を与える)</li> <li>・一つの場面からいろいろな考え方を受け取れることを確認する。</li> </ul>

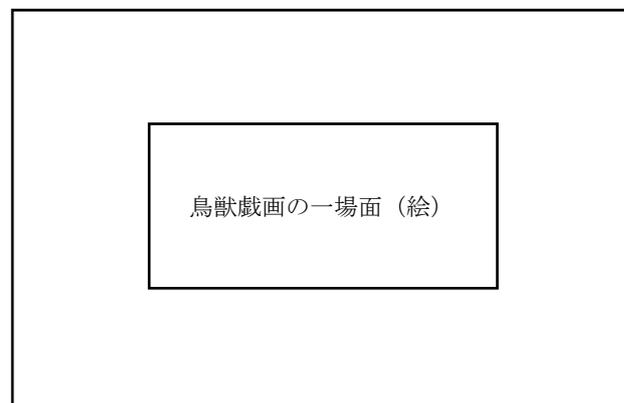
(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
<p>友達との語り合いを通して、自分の考えを広げている。</p> <p>「この筆者の表現について、もっと調べたい。」「〇〇さんの考えを聞いたら考えが〇〇に変わった。」「〇〇という新しい発見が生まれた。」等、次の学習に向けての振り返りを書いている。</p>	<p>「鳥獣戯画」の面白さを見付け出し、そのことについて友達と語り合うことができる。語り合いを通して、自分の考えと友達の考えを比べている。</p>	<p>本文中から筆者の解説を示して、「自分はどのように見えたか。」などのように声を掛け、語り合うきっかけを作る。</p>

(4) 板書計画・ワークシート



ワークシート



(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

◎思い付かない児童への支援

- ・スライドを見ながら考えてみましょう。

◎友達の考えを理解できていないグループへの支援

- ・どういうことか、別の言葉で言い換えて説明できますか？
- ・誰か他の人、かわりに説明できる人はいますか？

◎話し合った内容を整理しながら記述できるようにする。

- ・友達と相談しながら書いてもよいです。
- ・書き出しの例を見てみましょう。

## 8 本単元に続く「書くこと」の指導

### ① 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(1)カ	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 B(1)ウ	・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとすることができるようにする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	◆文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ	◆論の展開や表現、資料の使い方などについて、筆者の工夫とその関係や効果を考えて書いている。B(1)ウ	◆粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって鳥獣戯画のよさを伝える文章を書こうとしている。

### ② 指導計画（5時間）

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
第1次	1	○「『鳥獣戯画』を読む」の学習を生かして解説文の構成を考える。 ○解説する文章の下書きを書く。	・「『鳥獣戯画』を読む」で学習した表現の工夫に着目させる。 ◆文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。【知】 ☆記述・発言
	2	○下書きを班ごとに読み合い、文章全体の構成や内容、書き方を検討する。	・読み合う観点を確認し、推敲させる。(ICT活用) ◆粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。【態】 観察・ICT
	3	○清書をし、それぞれの解説文に対する感想を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	・感想を伝え合う際には、何に着目し、どのような言葉で説明や評価をしているかを捉えながら行うように声を掛ける。 ◆論の展開や表現、資料の使い方などについて、筆者の工夫とその関係や効果を考えて書いている。 【思】 ☆観察・発言・記述

